

## 第 8 回 国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会 議事要旨(案)

1 日時・場所：平成 16 年 12 月 6 日(月)10：00～12：00 経済産業省別館 8 2 7 会議室

2 出席者：

(検討会委員)：森田座長、上野委員、岡田委員、新美委員、野口委員、箱崎委員、  
山里委員、横山(尚)委員、横山(裕)委員。

(環境省)：環境保健部長、企画課調査官、環境リスク評価室長ほか。

(オブザーバー)：茨城県、神栖町、神奈川県、寒川町、千葉県、船橋市、習志野市。

## 3 議事概要

## (1) 議題 1「千葉県習志野における埋設情報の収集状況等について」

事務局から資料 3 に沿って千葉県習志野における埋設情報の収集状況等について説明した。

自衛隊の敷地についての環境調査は、誰が実施するのかとの委員からの指摘に対し、防衛庁と協議していきたいと説明し、了承された。

今後、資料 3 の今後の方針に沿って調査を実施することについて了承された。

## (2) 議題 2「物理探査技術の実証実験の結果について」

議題 3「寒川・平塚・習志野における不審物確認調査の地点の選定について」

議題 2 と議題 3 を一括して取り上げ、事務局から資料 4、資料 5 に沿って物理探査技術の実証実験の結果について及び寒川・平塚・習志野における不審物確認調査の地点の選定について説明した。

レーザー探査において、1m の測線間隔で実施した場合、中間地点の浅い部分について検知できない可能性があるにもかかわらず、なぜ 1m に設定したのかとの委員の質問に対し、当初、毒ガス弾検知に関するレーザー探査の知見はなかったため、専門家に意見を聞きつつ、一般的なレーザー探査の調査手法に則り、1m と設定した。その後、今回の実証試験によりそのことが明らかになったが、磁気探査等を組み合わせることで、この検知不能の範囲もカバーすることができるため、結果的には現行の手法で差し支えないと思われると説明し、了承された。

今回の実証試験で用いたドラム缶の中身と、砲弾の重さについて委員から質問があり、ドラム缶の中は空、砲弾は数 kg 程度と説明した。

磁気探査の実証実験が、実験場(富士宮市)のバックグラウンド磁気量の影響等のためできなかったとのことだが、富士宮はそんなに特殊なのかとの委員からの質問に対し、国内の他の地域にも存在すると考えられるが、少なくとも寒川・平塚・習志野では、このような影響は出ず、磁気探査可能なことを説明した。

今後、資料5の方向で不審物確認調査の調査地点を選定することについて了承された。

(3) 議題4「平塚の地下水モニタリングの結果について」

事務局から資料6に沿って平塚の地下水モニタリングの結果について説明した。

今後、資料6の「今後の対策」の方向で調査を進めることについて了承を得た。

(4) 議題5「茨城県神栖町における掘削調査の進捗状況及び環境調査について」

事務局から資料7等に沿って茨城県神栖町における掘削調査の進捗状況及び環境調査について説明した。

資料の今後の対応について、委員から質問があり、現在A Bトラック地区外の半径200mの圏内全ての飲料井戸でジフェニルアルシン酸の検査を実施しており、結果をまたご報告して、その後の対応をご議論頂きたい旨説明した。

今後、資料7の方向で対応を進めることについて了解された。

(5) 議題6「B/C事案の地下水調査の結果について」

事務局から資料8に沿ってB/C事案の地下水調査の結果について説明した。

今後、資料8の「今後の対策」の方向で調査を進めることについて了承を得た。

(6) 議題5「その他」

事務局から、先日湯河原で見つかった不審瓶の分析結果について、資料9に沿って報告した。

また、神栖の掘削調査現場を先生方に見てもらうことを考えている。詳細は後日連絡した旨説明した。

次回の検討会は1月を予定していることについて説明した。

以上